

相馬野馬追

—地域、伝統、歴史の中で生きる—

写真・文 望月康平



福島県相馬地方において、古く戦国時代から脈々と受け継がれてきた相馬野馬追（そうまのまおい）。この地域（相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、飯館村及び葛尾村）の約三分の二が、現在も何らかの規制区域である。震災以後の本格開催元年である今年、例年の約八割、386の騎馬武者が出場し、3日間で合計16万人の観衆を集め、相馬地方の平和・繁栄を祈った。写真は甲冑競馬。（2012/7/29撮影）



出場前の板倉好幸氏「特別なもんなんだな、野馬追ってな。誰に頼まれてやるわけでもない、有志が自分たちの想いでずーっとつないできた、あたりまえのようにずーっとやってきた、そういうもんだから。」
(2012/7/28 撮影)



20km 圏内の避難指示解除準備区域の復旧・復興は現在も遅々として進んでいない
(南相馬市小高区の中心市街、2012/6/7 撮影)



厩舎を提供した菅野氏（写真右）と法螺貝を吹く板倉氏（写真左）。厩舎がある菅野氏の自宅は原発 30km 圏内。彼もそして地域の中で家族同様に飼われてきた馬たちも、原発災害の被災者である。（2012/7/28 撮影）

相馬野馬追で「螺役長（かいはくちょう）」の大役を務める板倉好幸氏は、南相馬市小高区の家具職人である。同区は福島第一原発 20km 圏内。氏は現在も仮設住宅での家族離散の生活を余儀なくされており、自宅での生活再開の目途は立っていない。板倉氏は、原発事故直後、一旦は何も持たずに避難したが、3日後の3月15日、甲冑をはじめとした野馬追道具一式を取りに一時帰宅し、それを会津若松市の博物館に一時保管してもらった。今年、震災後に地域のつながりを通して知り合った菅野征吉氏から厩舎を借り、その甲冑を身に付けての出場である。



南相馬市の沿岸地域（2017/6/7 撮影）



野馬追に出場した板倉氏 (2012/7/29 撮影)